

# 知識情報学の可能性と図書館情報学教育の展望

石井啓豊

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科・教授

はじめに、図書館情報学の学問的性格について検討する。図書館情報学が総合科学としての性格を持つこと、その場合の社会的目的は社会の知識共有の実現であること、そして知識共有現象が人間社会の普遍的、本質的現象であることが最初の論点である。そして、この点をふまえて、図書館情報学を以下のような性格を持つ領域として捉える。

## ① 基本的な視点

知識は人間存在の本質であり、人々による知識の共有は人々の生活と社会の多様な活動を支え、それらをあらゆる側面で発展させる基盤である。共有というあり方によって人々の生活と社会の多様な活動を支え、発展させる基盤としての知識は、社会的知識資源ということができる。図書館情報学はこの視点から社会における知識の共有を実現するという社会的価値を追求する総合的領域である。

## ② 図書館情報学の対象世界

図書館情報学は情報メディアを社会的知識資源として捉え、その視点から社会における知識共有現象と、知識共有を実現する社会的仕組みと技術的仕組みを、人間、社会、文化、情報、情報メディア、技術などの多様なアプローチから解明し、設計し、社会に働きかける。

この見方から図書館情報学を「知識共有に関する総合科学＝知識情報学」として規定することによって、より一般的、原理的位置づけを獲得でき、技術的、社会的変化に対応した新しい領域としての発展を期待できると考えられる。

筑波大学ではこの知識情報学という視点から図書館情報学教育の発展を目指し、平成 19 年度から新しい教育課程をスタートさせた。教育課程の概要を配付資料（当日）によって説明する。

## 【講演者プロフィール】

石井啓豊（いしい ひろとよ）

国立大学等の図書館、学術情報センターの実務を経て、平成 3 年度に図書館情報大学助教授。筑波大学との統合後、平成 19 年度まで、知的コミュニティ基盤研究センター長、図書館情報メディア専攻長、図書館情報専門学群長、情報学群知識情報・図書館学類長を務めた。